近世道状遺構の集成（９）

近世プロジェクトチーム

はじめに

本プロジェクトチームでは、2015 年度より近世道状遺構の集成を行っている。

県内の遺跡で発見され、報告されている近世の道状遺構のデータを集成し、規模や構築方法等について検討していく予定である。今回は、伊勢原市上粕屋・石倉中遺跡（No. 40）、粟窪・林遺跡、粟窪・林台遺跡、粟窪・四石田遺跡（No. 71）、神成松遺跡第８地点Ⅰ（№74）、西富岡・向畑遺跡（№160）、池端・坂戸遺跡（No. 170）を取り上げる。

凡　例

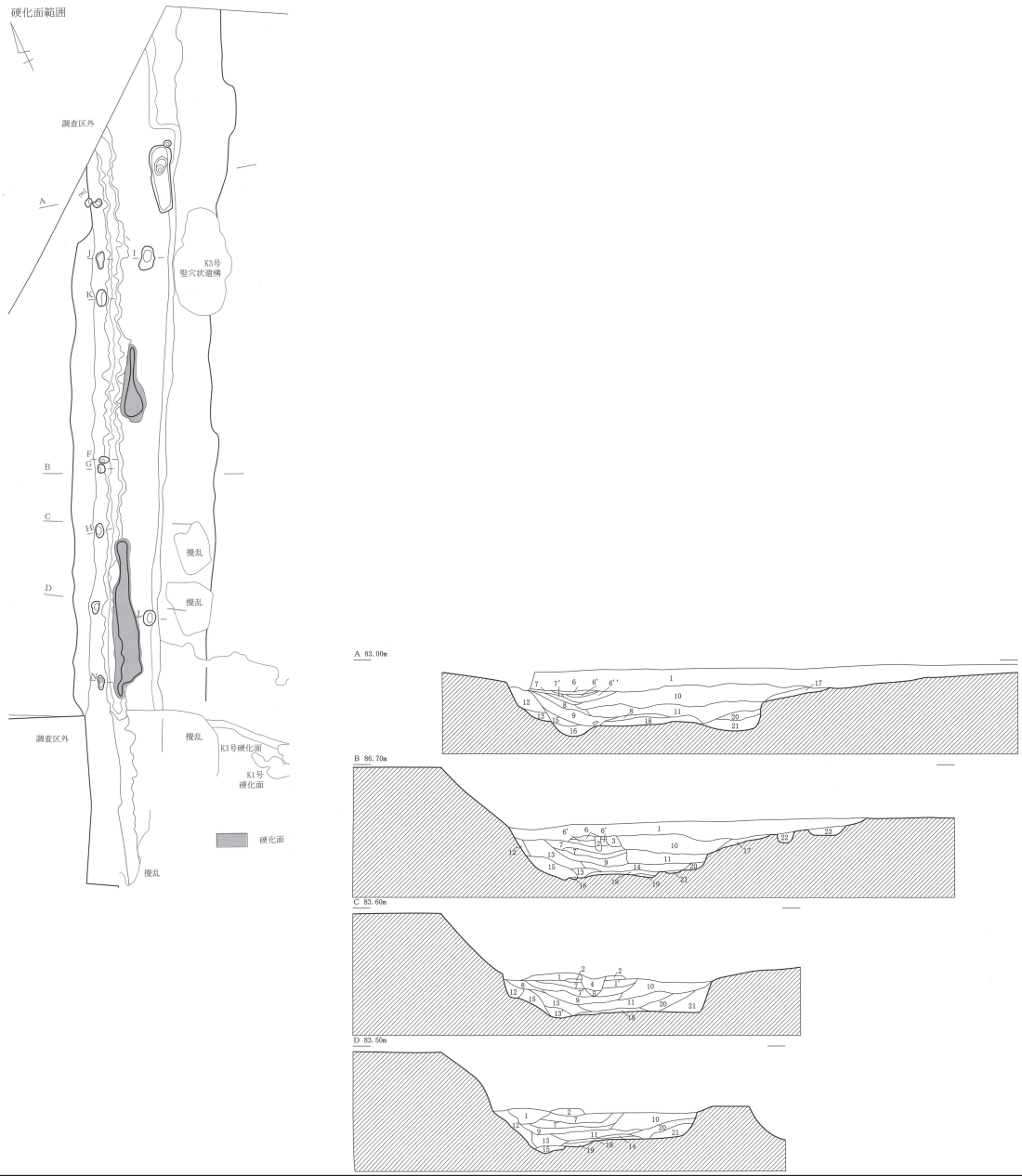
・遺構名は報告書の記載に基づく。

・縮尺は平面図がスペースに収まるような大きさに適宜変えているため、図ごとに示した。

・断面図は報告書に複数記載されている例もあるが、一部を記載することにした。

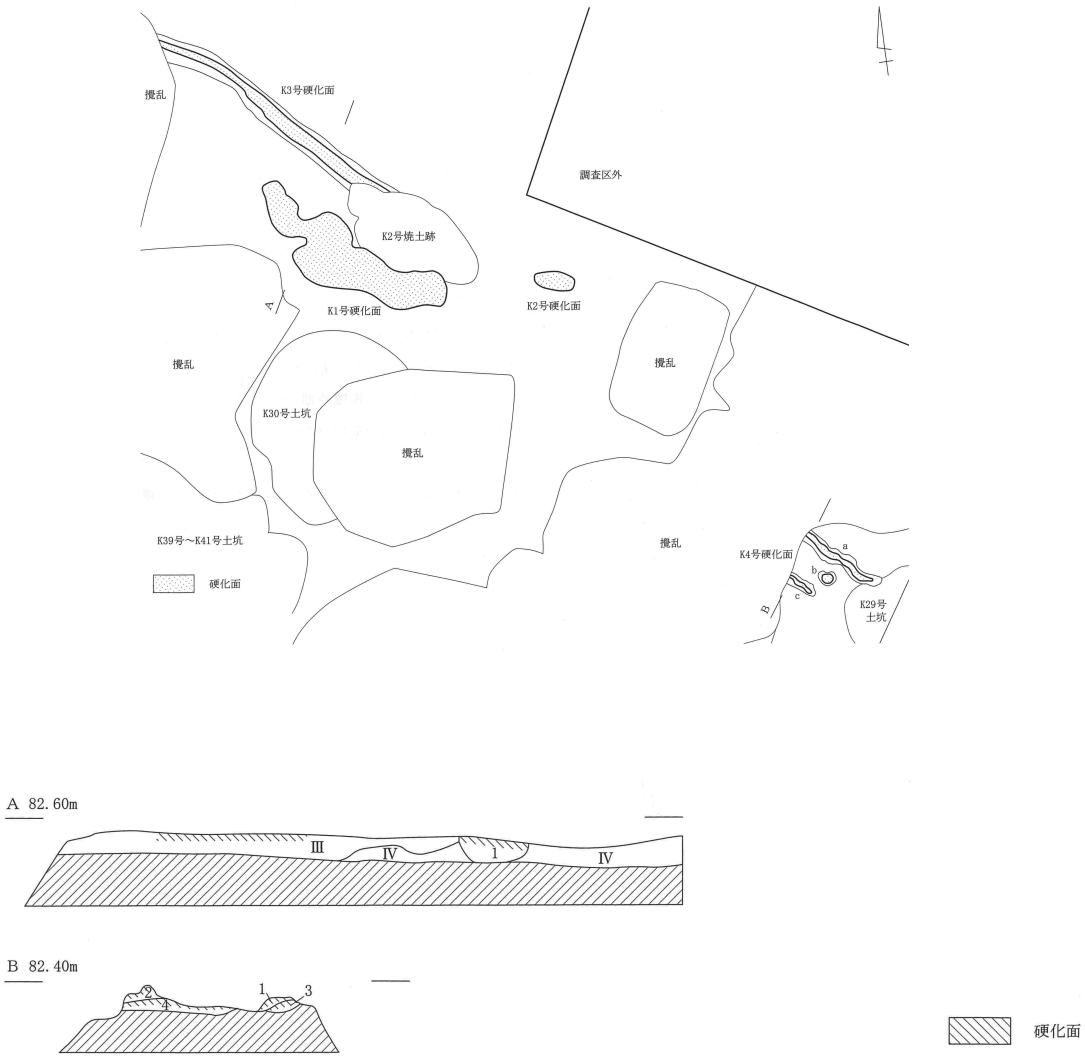
資料No.	遺跡名	遺構名	文献名
151	上粕屋・石倉中遺跡	Ｋ２号道状遺構	2013年　『上粕屋・石倉中遺跡（No. 40）』かながわ考古学財団調査報告294
152	上粕屋・石倉中遺跡	Ｋ１～２号硬化面	2013年　『上粕屋・石倉中遺跡（No. 40）』かながわ考古学財団調査報告294
153	粟窪・林遺跡	６区Ｋ１～３号硬化面	2023年　『粟窪・林遺跡、粟窪・林台遺跡、粟窪・四石田遺跡（No. 71）』かながわ考古学財団調査報告334
154	粟窪・林遺跡	６区Ｋ４・５号硬化面	2023年　『粟窪・林遺跡、粟窪・林台遺跡、粟窪・四石田遺跡（No. 71）』かながわ考古学財団調査報告334
155	粟窪・林遺跡	６区Ｋ６・７号硬化面	2023年　『粟窪・林遺跡、粟窪・林台遺跡、粟窪・四石田遺跡（No. 71）』かながわ考古学財団調査報告334
156	粟窪・林台遺跡	３区Ｋ１号硬化面	2023年　『粟窪・林遺跡、粟窪・林台遺跡、粟窪・四石田遺跡（No. 71）』かながわ考古学財団調査報告334
157	粟窪・林台遺跡	３区Ｋ２号硬化面	2023年　『粟窪・林遺跡、粟窪・林台遺跡、粟窪・四石田遺跡（№71）』かながわ考古学財団調査報告334
158	粟窪・林台遺跡	12区Ｋ１号道状遺構	2023年　『粟窪・林遺跡、粟窪・林台遺跡、粟窪・四石田遺跡（№71）』かながわ考古学財団調査報告334
159	神成松遺跡第８地点Ⅰ（№74）	ＣＫ１・２号段切り ＣＫ１号道状遺構 ＣＫ５号溝状遺構	2022年　『神成松遺跡第８地点Ⅰ（№74）』　かながわ考古学財団調査報告331
160	神成松遺跡第８地点Ⅰ（№74）	Ｋ１号溝状遺構 Ｋ１号道状遺構	2022年　『神成松遺跡第８地点Ⅰ（№74）』　かながわ考古学財団調査報告331
161	神成松遺跡第８地点Ⅰ（№74）	Ｋ３～６号溝状遺構 Ｋ２号道状遺構	2022年　『神成松遺跡第８地点Ⅰ（№74）』　かながわ考古学財団調査報告331
162	西富岡・向畑遺跡（№160）	ＣＫ１号道状遺構	2014年　『西富岡・向畑遺跡（№160）』　かながわ考古学財団調査報告298

資料No.	151	遺跡名	上粕屋・石倉中遺跡(№40)
所在地	伊勢原市上粕屋		
遺構名	Ｋ２号道状遺構		
道　幅	60～740m		
年　代	18世紀代前半期		
備　考	検出長4500m。北端部は調査区外へ展開しているため、全体は不明である。 硬化面では遺物が出土していないことから具体的な帰属時期は明瞭ではなく、確認面などの特徴から近世以降の所産として扱った。		



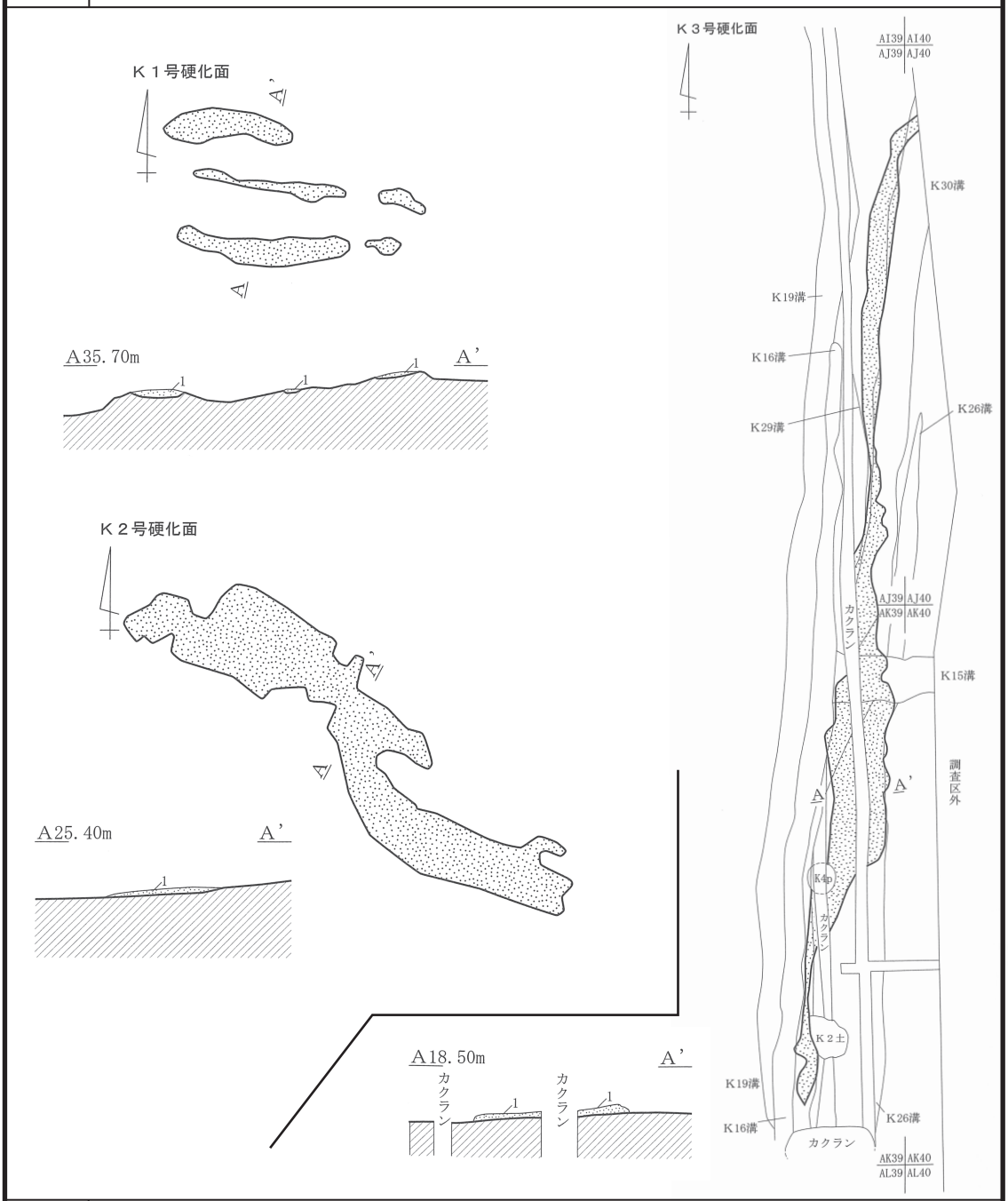
縮　尺	(平面図)1/360　(断面図) 1/120

資料No.	152	遺跡名	上粕屋・石倉中遺跡(№40)
所在地	伊勢原市上粕屋		
遺構名	Ｋ１～４号硬化面		
道　幅	(Ｋ１号)0.1m、(Ｋ２号)0.2m、(Ｋ３号)0.3m、(Ｋ４号)0.2m		
年　代	宝永以前		
備　考	(Ｋ１号)検出長3.4m。(Ｋ２号)検出長0.6m。(Ｋ３号)検出長4.0m。(Ｋ４号)検出長1.4m。 全体的にはほぼ平坦で、いずれも顕著な傾斜や勾配はみられない。		



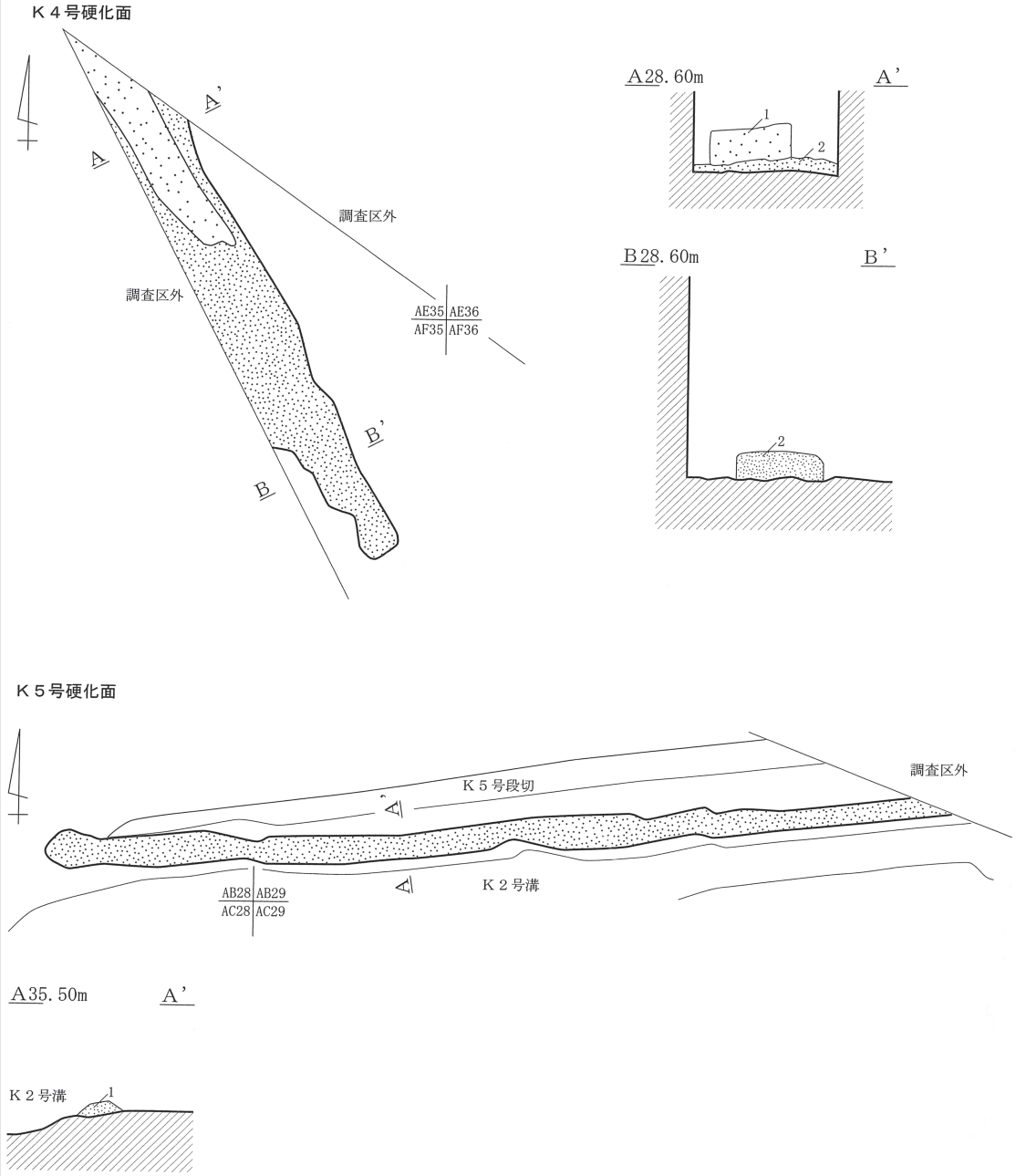
縮　尺	(平面図)1/120　(断面図) 1/40

資料No.	153	遺跡名	粟窪・林遺跡(№71)
所在地	伊勢原市粟窪地先		
遺構名	６区Ｋ１～３号硬化面		
道　幅	（Ｋ１号）0.4m、（Ｋ２号）1.1m、（Ｋ３号）1.0m		
年　代	宝永以前		
備　考	（Ｋ１号）検出長2.1m。中央と南側の硬化面は東側で一旦途切れている。 （Ｋ２号）検出長6.2m。（Ｋ３号）検出長17.8m。下層にＣ２号道状遺構が所在。 Ｃ２号道状遺構とは北端の向きが異なる。		



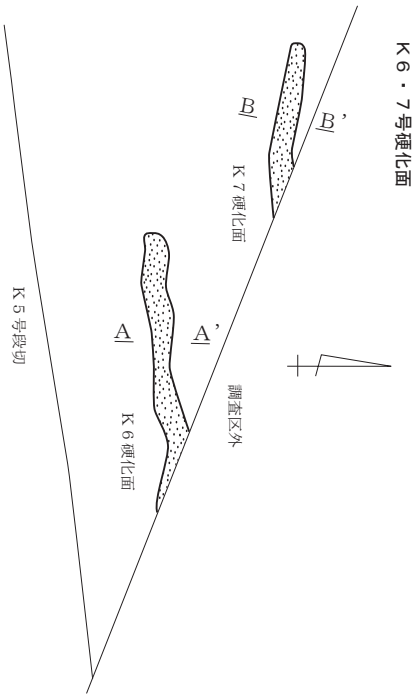
縮　尺	(平面図)1/80・1/120　(断面図) 1/40

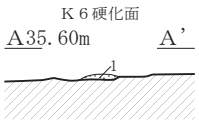
資料No.	154	遺跡名	粟窪・林遺跡（No. 71）
所在地	伊勢原市粟窪地先		
遺構名	６区Ｋ４・５号硬化面		
道　幅	(Ｋ４号)0.5m、(Ｋ５号)0.4m		
年　代	宝永以前		
備　考	(Ｋ４号)検出長最大7.2m。厚さ0.1～0.2m。北西端から南東に向かって延び、北から南に向けて傾斜している。 (Ｋ５号)検出長10.2m。厚さ0.1m。東西に向き、北側にＫ５号段切り、南側にＫ２号溝状遺構が所在する。		

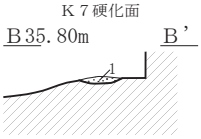


縮　尺	(平面図)1/80　(断面図) 1/40

資料No.	155	遺跡名	粟窪・林遺跡(No. 71)
所在地	伊勢原市粟窪地先		
遺構名	６区Ｋ６・７号硬化面		
道　幅	0.2m		
年　代	宝永以前		
備　考	（Ｋ６号）検出長2.8m。（Ｋ７号）検出長1.8m。硬化面の下は僅かに窪んでいるが、明確な掘込みは認められない。断面形は皿状である。		

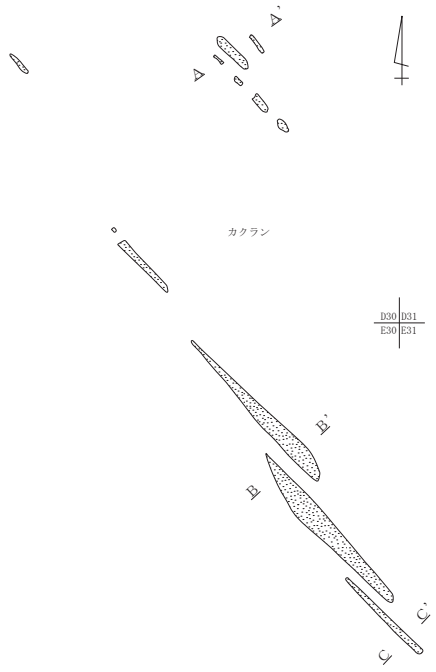


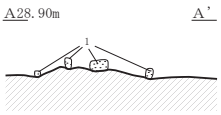


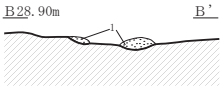


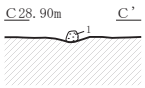
縮　尺	（平面図）1/80　（断面図）1/40

資料No.	156	遺跡名	粟窪・林台遺跡(No. 71)
所在地	伊勢原市粟窪地先		
遺構名	３区Ｋ１号硬化面		
道　幅	0.4m		
年　代	近世		
備　考	検出長11.8m。検出状況から耕作等に関する何らかの跡であると考えられるが詳細については不明である。		



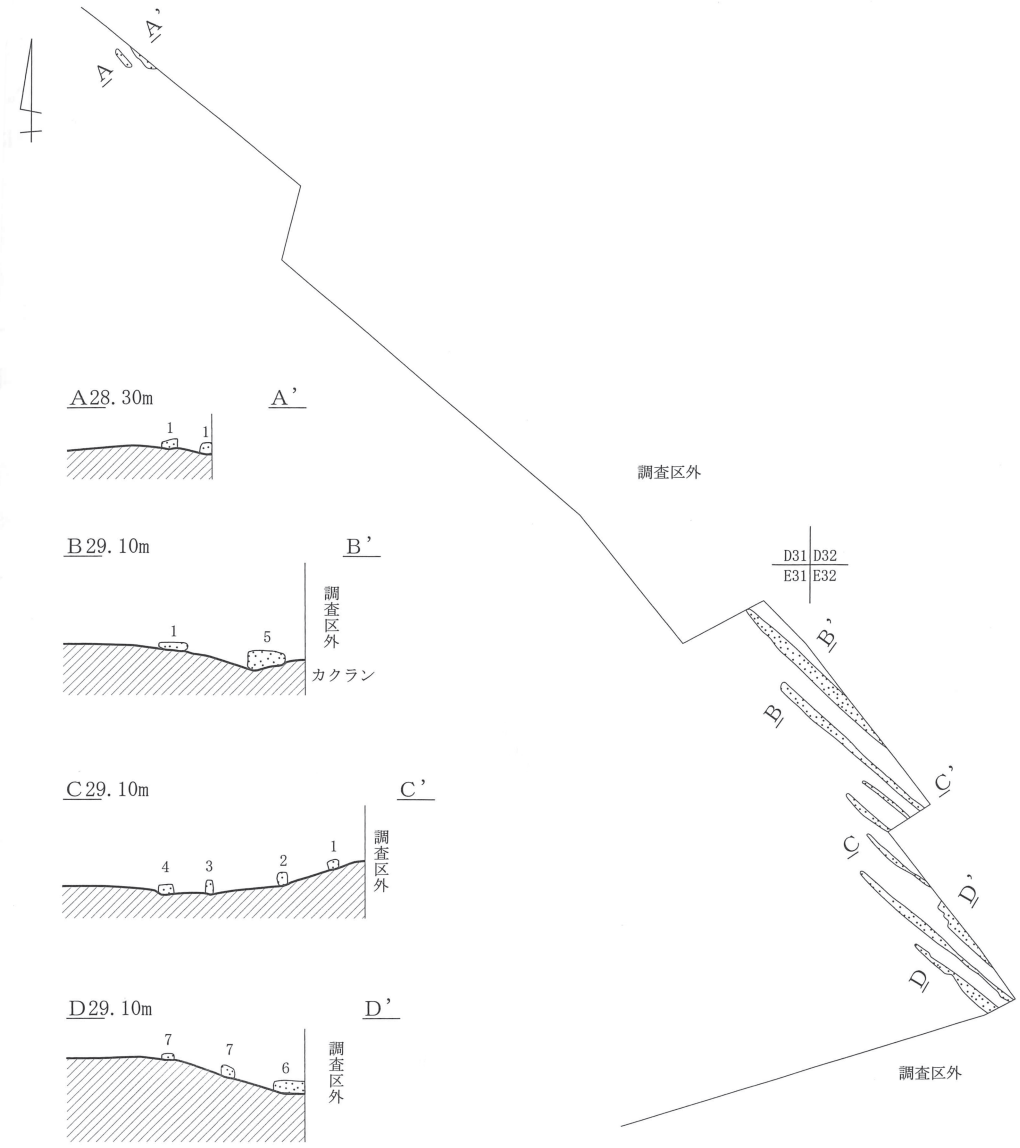






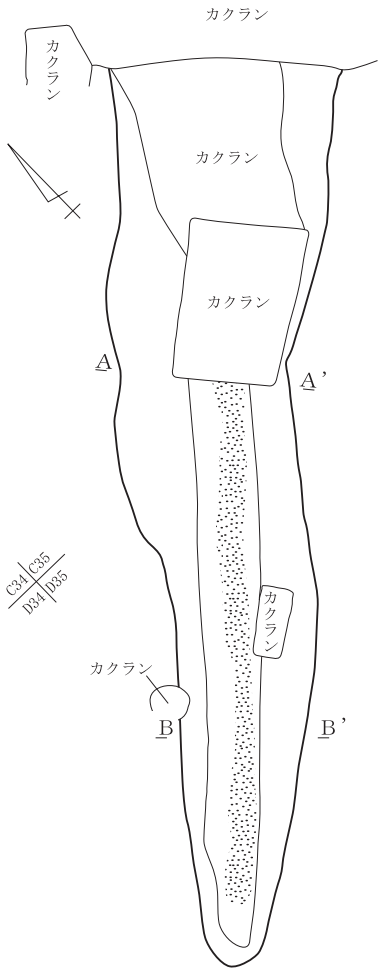
縮　尺	（平面図）1/120　（断面図）1/60

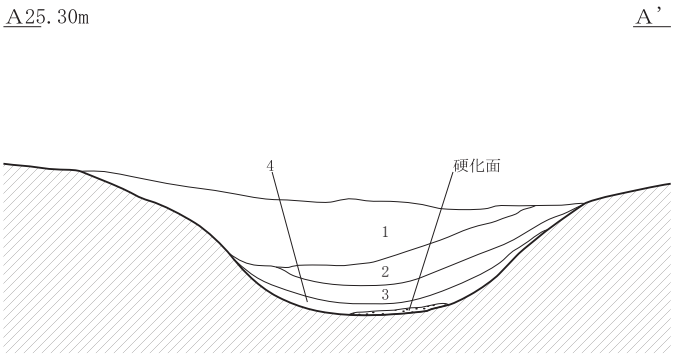
資料No.	157	遺跡名	粟窪・林台遺跡(№71)
所在地	伊勢原市粟窪地先		
遺構名	３区Ｋ２号硬化面		
道　幅	0.2m		
年　代	宝永以前		
備　考	検出長22.0m。硬化面の土色調に違いが見られるのは、南東側の地形は南西から北東へ傾斜し、調査区端付近の一部で北東が高くなる複雑な地形であり、更に地山面の削平等が影響しているからと推定される。遺物は出土していない。		

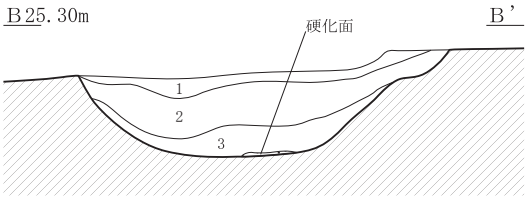


縮　尺	(平面図)1/120　(断面図) 1/40

資料No.	158	遺跡名	粟窪・林台遺跡(№71)
所在地	伊勢原市粟窪地先		
遺構名	12区Ｋ１号道状遺構		
道　幅	0.3～0.5m		
年　代	宝永以前		
備　考	検出長8.5m。本遺構の北側では奈良・平安時代の道状遺構が発見され、南側には現在使用されている道路があることから、台地へ通じる道が少しずつ場所を変えながら設けられていたものと思われる。		





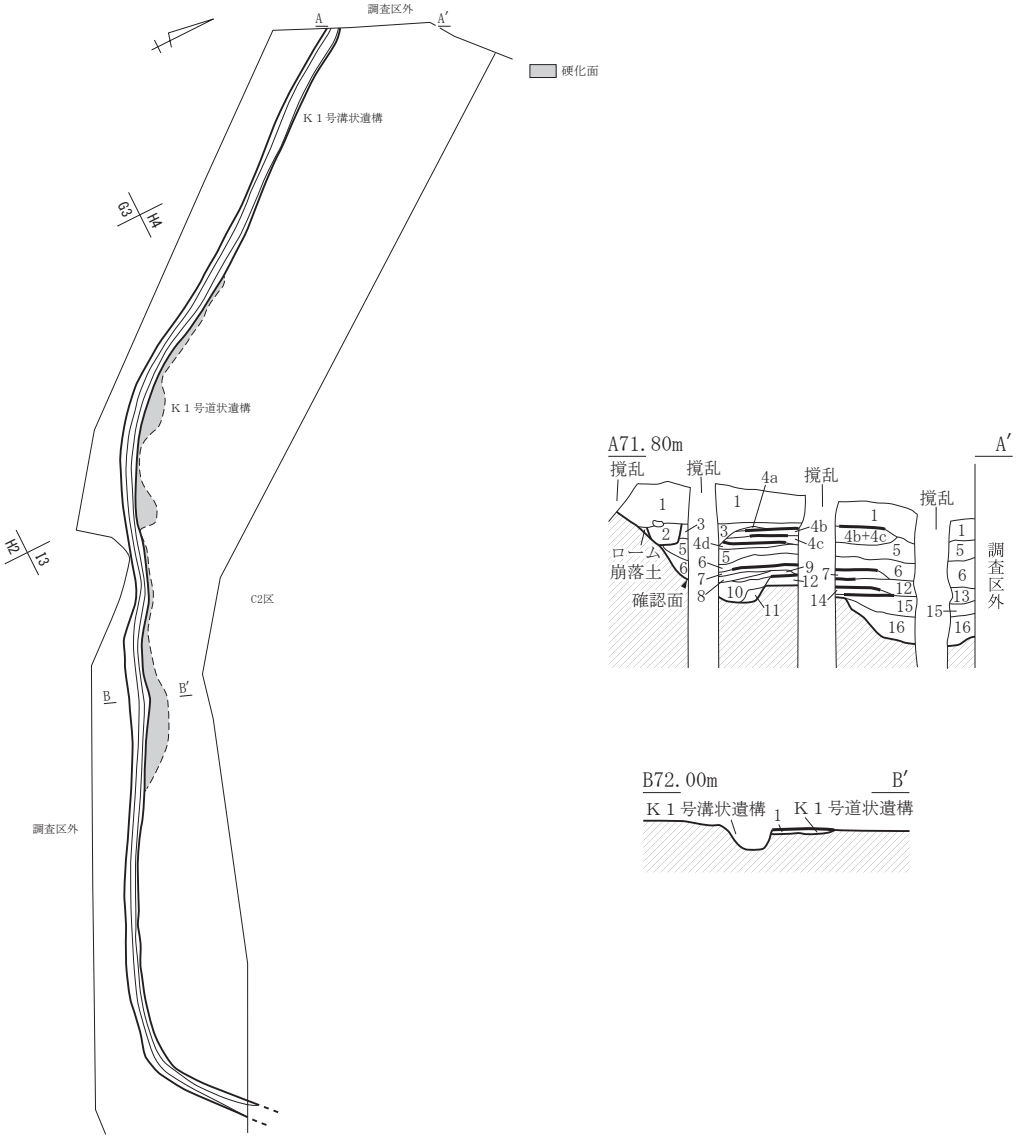


縮　尺	(平面図)1/120　(断面図) 1/40

資料No.	159	遺跡名	神成松遺跡第８地点Ⅰ（No. 74）
所在地	伊勢原市上粕屋		
遺構名	ＣＫ１・２号段切り・ＣＫ１号道状遺構・ＣＫ５号溝状遺構		
道　幅	(ＣＫ１号段切り)2.3m、(ＣＫ２号段切り)7.4m、(ＣＫ１号道状遺構)1.3m、(ＣＫ５号溝状遺構)0.7m～1.8m		
年　代	宝永以前		
備　考	（ＣＫ１号段切り）検出長60m。相模原段丘と中津原段丘の段差を利用して構築された段切り。 （ＣＫ２号段切り）検出長24m。構築時の地形は近世以降、形状は改変された可能性が高い。 （ＣＫ１号道状遺構）検出長41m。北西側寄りは近世以降の開墾等により削平され、消失した可能性が高い。 （ＣＫ５号溝状遺構）検出長42m。宝永火山灰を含まず、宝永火山噴火以前の時期のものと考えられる。		

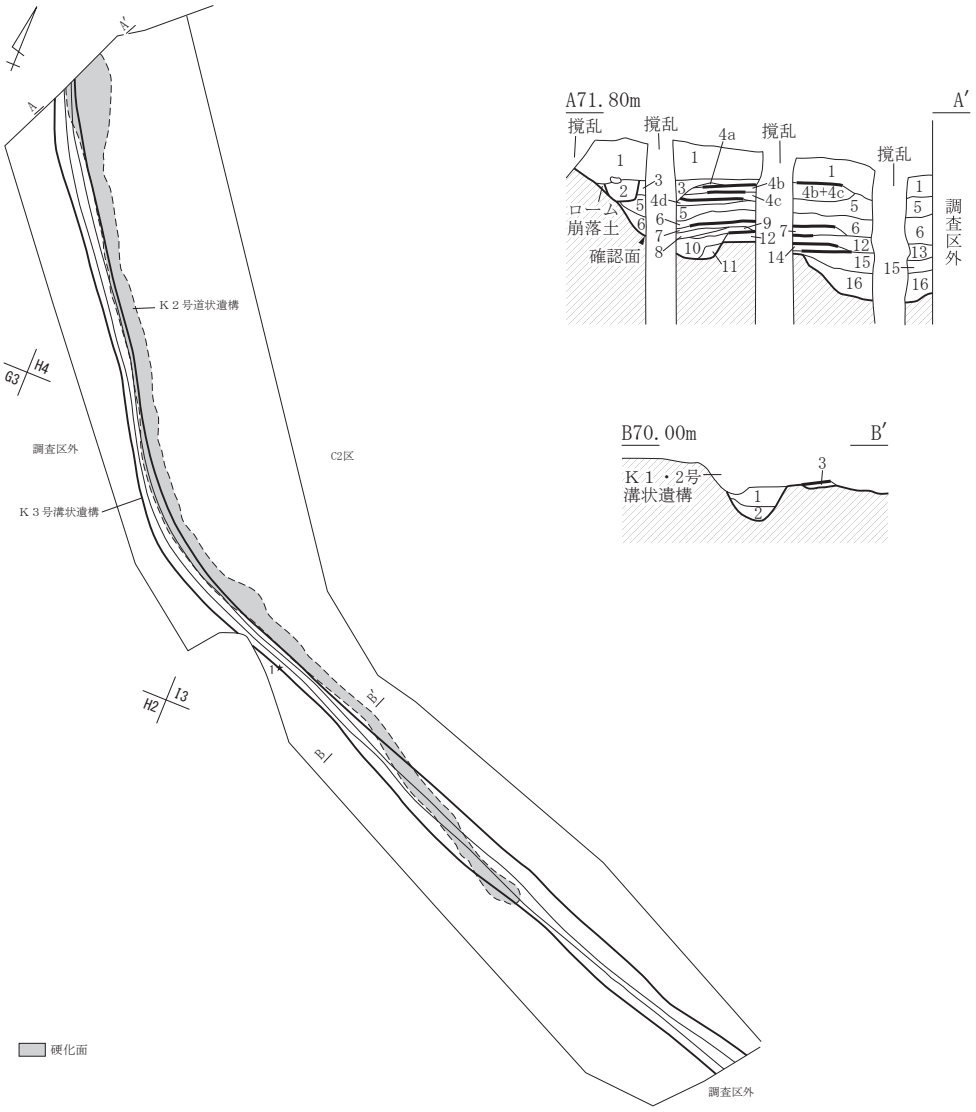
縮　尺	（平面図）1/480　（断面図 ）1/120

資料No.	160	遺跡名	神成松遺跡第８地点Ｉ（No.74）
所在地	伊勢原市上粕屋		
遺構名	Ｋ１号溝状遺構・Ｋ１号道状遺構		
道　幅	(Ｋ１号溝状遺構)0.9m、(Ｋ１号道状遺構)0.8m		
年　代	江戸時代末期		
備　考	(Ｋ１号溝状遺構)検出長47.3m。江戸時代末期の遺構と推定される。 (Ｋ１号道状遺構)検出長21.2m。宝永降灰後～江戸時代末期の遺構と推定。		



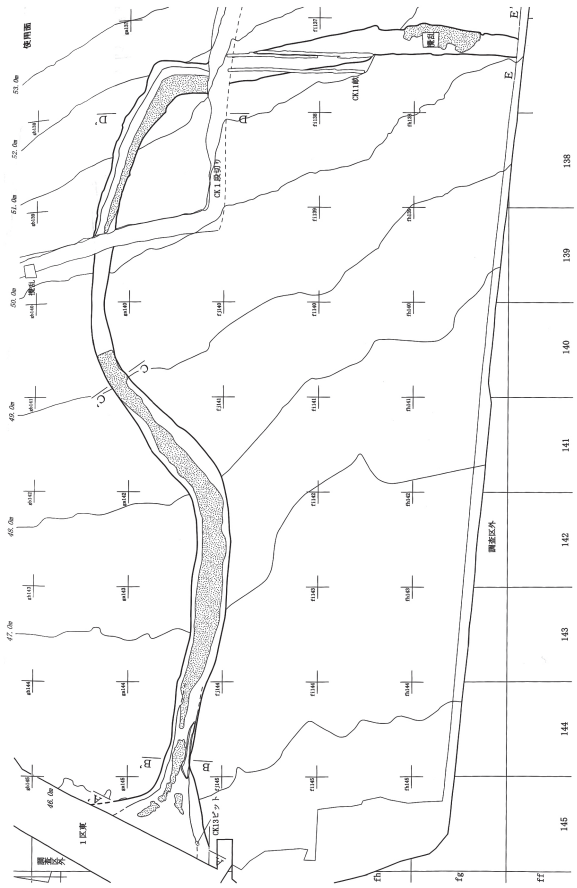
縮　尺	(平面図)1/300　(断面図) 1/100

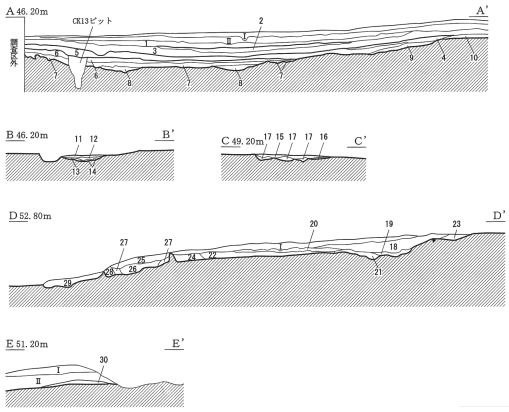
資料No.	161	遺跡名	神成松遺跡第８地点Ｉ（No.74）
所在地	伊勢原市上粕屋		
遺構名	Ｋ３号溝状遺構・Ｋ２号道状遺構		
道　幅	(Ｋ３号溝状遺構)1.5m、(Ｋ２号道状遺構)2.0m		
年　代	江戸時代末期		
備　考	(Ｋ３号溝状遺構)検出長43.4m。遺構の先後関係から、江戸時代末期の遺構と推定される。 (Ｋ２号道状遺構)検出長34.3m。東側端部は近世以降の削平をうけた可能性が高い。		



縮　尺	(平面図)1/300　(断面図) 1/100

資料No.	162	遺跡名	西富岡・向畑遺跡(№160)
所在地	伊勢原市西富岡		
遺構名	ＣＫ１号道状遺構		
道　幅	1.4～4.2m		
年　代	宝永以前		
備　考	検出長122.8m。東から屈折する形で西に向けて構築されている。		





縮　尺	(平面図)1/800　(断面図) 1/200